

2018年5月31日

陸運安全協力会 会員各位

積込時の監視改善のお願い

昭和四日市石油(株)四日市製油所
陸運安全協力会 会長 岩野 淳作

平素、会員の各社様には、安全荷役にご尽力をいただき厚くお礼申し上げます。

非常に低い確率ですが、積込時にオーバーフローが発生した場合には、速やかに積込停止ボタンを押す、またはシャットオフバルブを閉止して漏洩の拡大防止の処置が必要です。このため、積込時には、常にハッチ元を監視していることが特に重要です。

残念ながら、月次安全パトロール（白油・黒油）においては、毎回のように積込監視がパネル中心であるとの指摘が多く、なかなか改善が進まないのが現状です。

過去2年間のパトロールデータをまとめて解析しましたので、各社改善のヒントとして改善への更なる取り組みをお願いします。

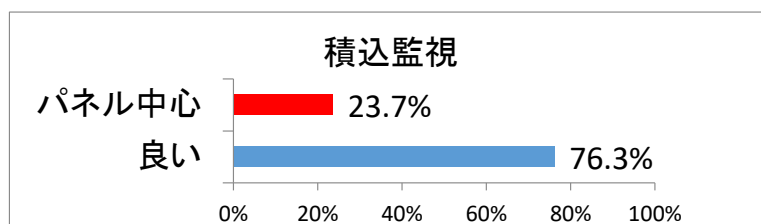
1. パトロール結果の現状

① パトロール全体評価の推移

月次のパトロール結果で報告していますが、2015年よりパトロールの定量評価を行っており、目標のレベルは75点以上としていますが、頭打ち傾向であり改善が進んでいません。

	2015年	2016年	2017年
パトロール評価点数	70.2	73.1	72.8

この主な原因は、積込時の監視で“パネル中心の監視”が多いとの指摘によるものです。この指摘は3年間でほとんど改善していません。2017年間の集計でも、積込時の監視で“パネル中心”との指摘が、23%もあります。

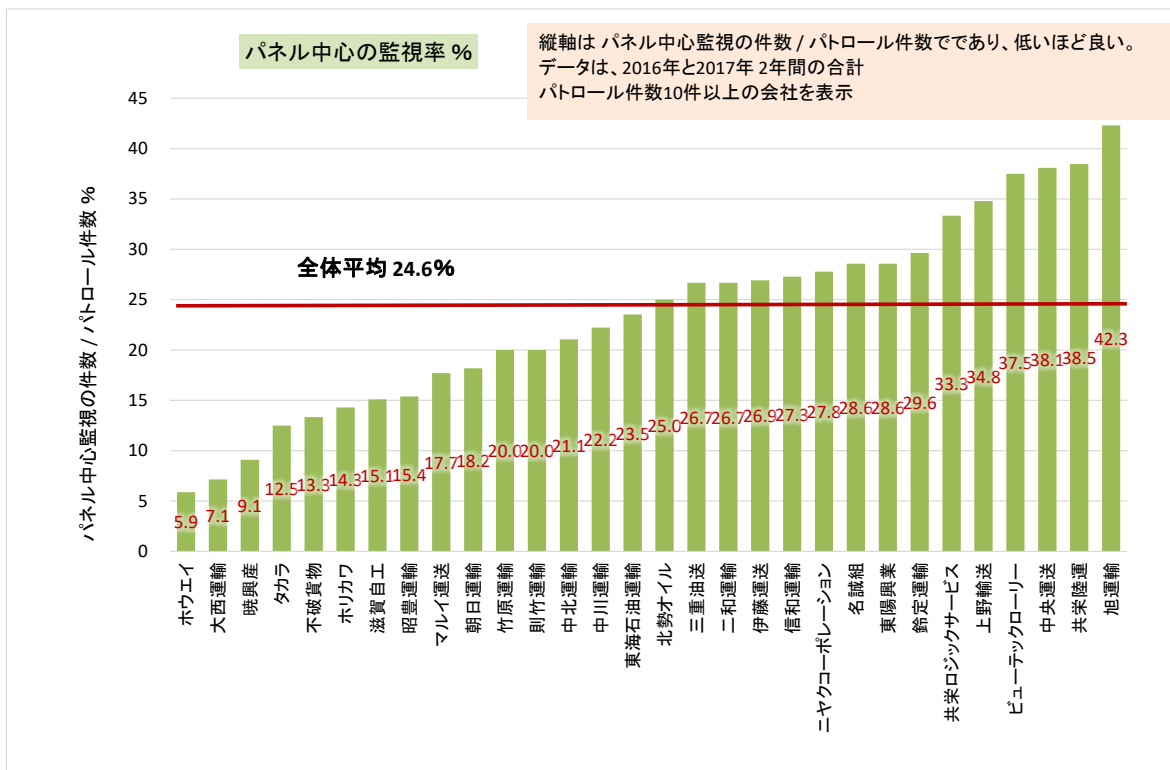


② 会社別の積込監視の評価

積込時の監視状況を会社別に解析した結果を以下のグラフに示します。

2016と2017年2年間のパトロール結果より、パトロール件数が10件以上あった会社についてパネル中心の監視率をまとめました。

積込時の監視 会社別の状況



積込時の“パネル中心の監視“の指摘は、ゼロが目標ですが、一番少ない会社でも6%、多い会社は40%に達しています。

積込時の監視については、白油安全パトロール DVD（2018年2月配布）に詳しく解説されていますので、再度乗務員に周知をお願いします。

以上

添付資料

積込時の監視 解析結果（2016年2017年2年間のデータ）

パトロール回数が5件以上の会社を表示

	社名	パトロール回数	パネル中心の監視	パネル中心の監視率 %
1	ホウエイ	17	1	5.9
2	大西運輸	14	1	7.1
3	暁興産	22	2	9.1
4	タカラ	16	2	12.5
5	不破貨物	15	2	13.3
6	ホリカワ	14	2	14.3
7	滋賀自工	53	8	15.1
8	昭豊運輸	13	2	15.4
9	マルイ運送	96	17	17.7
10	朝日運輸	22	4	18.2
11	竹原運輸	20	4	20.0
12	則竹運輸	10	2	20.0
13	中北運輸	19	4	21.1
14	中川運輸	18	4	22.2
15	東海石油運輸	51	12	23.5
16	北勢オイル	24	6	25.0
17	三重油送	90	24	26.7
18	二和運輸	15	4	26.7
19	伊藤運送	78	21	26.9
20	信和運輸	11	3	27.3
21	ニヤクコーポレーション	18	5	27.8
22	名誠組	21	6	28.6
23	東陽興業	14	4	28.6
24	鈴定運輸	27	8	29.6
25	共栄ロジックサービス	24	8	33.3
26	上野輸送	23	8	34.8
27	ビューテックローリー	16	6	37.5
28	中央運送	21	8	38.1
29	共栄陸運	26	10	38.5
30	旭運輸	26	11	42.3
31	松風運輸	9	3	33.3
32	愛設運輸	9	2	22.2
33	野々口石油	5	2	40.0
34	滋賀運送	5	2	40.0
35	ダイコー	5	2	40.0